

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	日本私立学校振興・共済事業団
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	東京都千代田区富士見一丁目10番12号
工場等の名称	愛知会館「名古屋ガーデンパレス」
工場等の所在地	愛知県名古屋市中区錦三丁目11番13号
業種	宿泊業、飲食サービス業
業務部門における 建築物の主たる用途	ホテル・旅館
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	私学共済加入者の宿泊施設
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	～ 令和7年3月31日		
公表方法		掲示 閲覧	(場所)
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先			

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当施設は、地球温暖化をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、事業活動のあらゆる分野を通じて持続的発展可能な社会の実現に貢献します。

1. 継続的な環境改善

専用水道及びコ・ジェネレーションシステムの有効活用とインバータ制御による省エネに向け努力する。

2. リサイクルの推進

グリーン購入法に基く物品の調達を行う様に努める。

3. 職員への環境教育

職員に対して環境教育の一環として、毎週日曜日の朝、各部署代表者により、近隣の清掃活動を実施する。その他、当会館ロビーと玄関周辺、東側を中心に花、植物等を植え、緑化推進を図っている。

4. 産業廃棄物抑制

ゴミの分別を徹底し、再生資源の有効活用を促進する。

5. 自動車等輸送機関に関する対策

自家用車での通勤及び営業活動を自粛し、公共交通機関、自転車等の利用を奨励する。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

館内連絡網を利用し、職員、従業員への周知。

その他、月次業績会議、朝礼等から職員、従業員への周知。

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1, 886	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） ②を除く	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1, 886	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総 排 出 量	1, 886	t-CO ₂	2, 830	t-CO ₂	▲ 50.1	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排 出 量		CO ₂		CO ₂		%

（2）目標設定の考え方

設備機器の老朽化及び経年劣化に伴う燃料消費の増加で原単位の悪化が考えられるが、コロナ収束後、宿泊人員や宴席件数の増加を想定した場合、令和3年度を下回るとは考えにくい。よって、目標排出量は令和元年度から令和3年度の目標排出量（2, 979t-CO ₂ ）を5%下回る目標排出量が妥当と思われる。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
一般管理/省エネルギー使用量等の把握及び管理	エネルギー（光熱給水費）の使用量の把握	使用量のグラフ化の掲示及び周知と経費の削減
省エネルギー・省資源の推進/空調	①冷温水機の整備等 ②空調機・給排機のスケジュール管理	熱効率の向上と燃料費の削減等によるCO ₂ 及びエネルギー使用量と原単位の改善
省エネルギー・省資源の推進/空調	クールビズ・ウォームビズの推奨	ホテル利用者に限らず、従業員へ周知し室内温度の管理
省エネルギー・省資源の推進/照明	①未使用か所（宴会場・ロビー・トイレ・廊下等）の消灯 ②蛍光灯を順次LEDに更新 ③エレベータ使用制限（直上直下階等の移動時）	電力量の削減
自動車利用における取組	営業活動	自転車や公共交通機関の利用を推進 エコドライブの推進（急発進・急加速をしない、アイドリングストップの励行）
調理における取組	調理調整	食品ロスに心がけ、残品の有効活用 の励行 ゴミの減量化

指針第1号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

節水、節電への館内注意喚起及び使用量の掲示 両面コピー、裏紙利用等による紙使用量の削減
--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

当会館周辺、近隣清掃の実施 各空調機、加湿器、換気設備等の点検強化と清掃 熱源設備の温度適正化（冷・温水の温度は適正か？など）
